

平成27年度 佐渡市算数部 活動報告

部長 森 敏美

1 研究主題 学力向上を目指した授業改善

2 研究の概要

本年度は、「既習事項を活用し、友達とかかわり合いながら課題を解決する姿」を目指し、思考力・表現力を高める授業の在り方を研究した。



3 研究の実際 【授業研究】

- (1) 期日 11月18日(水)
- (2) 指導者 両津吉井小学校 校長 高橋 喜一郎 様
- (3) 授業者 二宮小学校 野上 時子 教諭
- (4) 単元名 3年「小数」
- (5) 授業の概要

- ① 整数の魔方陣を提示し、隠れている数字を1列ずつ見せることで、魔方陣の考え方に気付かせる。
- ② 小数の魔方陣を提示する。空欄に当てはまる数字を順序立てて考えていくことで、「どこから考えたらよいか」という問いを引き出し、「始めに合計を求めればできそうだ」という見通しをもたせる。
- ③ ペアやグループで魔方陣の空欄を考えさせたり、どのように求めたかを発表させたりする。
- ④ 終末で「算数日記」を書かせ、学びを確かなものにする。



(6) 協議会の概要

「グループでの教え合いができていた。」「授業の振り返りの算数日記では、本時の学びがしっかりと書けていた。指導の積み重ねを感じる。」「課題の難易度は児童の実態に合っていたらうか。児童の困り感が少なかった。」「グループ活動の目的がはっきりするとよい。」等の意見が出された。

(7) 指導の概要（高橋校長先生より）

- ① 本時の授業の位置付け
既習事項「加法・減法の相互関係」「3口の計算」「小数の加減」を活用して思考力・表現力を高めることをねらった授業であった。
- ② 思考力・表現力の高まりはどうであったか。
問いの焦点化で教師の出した問題を子ども達の追求問題にすること。
問いの焦点化の3つの要素「分らなさ」「解決方法の見通し」「意欲」がそろると、児童一人一人の問題解決が保障される。「分らなさ」と「見通し」のバランスが大切である。

4 成果と課題

今年度の研修は、授業研究1回だけであったが、「意欲的に課題に取り組む」「グループで協力して魔方陣を解いたり説明したりする」「振り返りで本時の学びを書ける」等、授業者が目指す児童の姿が現れた授業であった。指導の積み重ねの大切さと児童のその姿を引き出す教師の技術等を学ぶことができた。

高橋先生のご指導より、「問いの焦点化」の3つの要素「分らなさ」「解決の見通し」「意欲」のバランスが大切であることを学んだ。

「分らなさ」>「見通し」 児童は、考えられない。思考がストップしてしまう。

「分らなさ」<「見通し」 作業となってしまう、思考力が育たない。

課題が解決できれば思考力が高まったと考えがちであったが、児童の実態に合わせた課題の難易度と見通しのバランスについて、研修を深めていきたい。